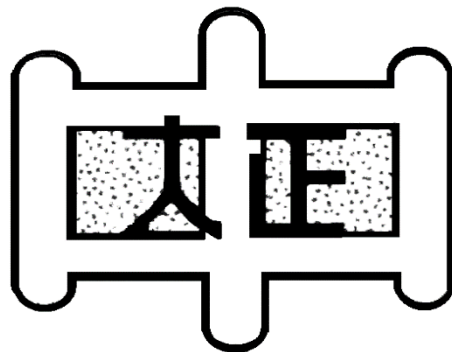


2024年度

運営に関する計画

（中間評価）



大阪市立大正中央中学校

2024 年度 運 営 に 関 す る 計 画

【学校経営の重点】

◇ 自 分 を 創 る ◇

— 自ら学び、鍛え、未来の造り手となる生徒の育成 —

【本市の教育における最重要目標】

- (1) 安全・安心な教育の推進
- (2) 未来を切り拓く学力・体力の向上
- (3) 学びを支える教育環境の充実

【本校の教育目標】

- ◇ 役立つ人
- ◇ 自ら伸びゆく人
- ◇ 朗らかな人

《具体的方策》

- 1 基礎的・基本的な教育内容の確実な定着と、生徒の活発な意見をもとにした学習活動を充実し、自ら考え、意欲的に解決する力を育む
- 2 豊かな体験的活動を通して、個性を尊重し、互いに認めあう集団の育成を図り、思いやる心や感動する心を育む
- 3 自らの健康や体力に関心をもち、健康でたくましい心身を養い、自律的な生活習慣や態度を育む
- 4 今日的課題に対応する教育を充実させ、自らの判断で、生きるべき道を選択し、決定するとともに、社会の変化に的確に対応できる力を育む
- 5 地域・保護者の学校支援体制を構築し、家庭や地域の教育力を活かした教育活動を進めるなかで、地域の伝統行事への積極的な参加とともに、地域の一員である自覚と感謝する心を育む

《めざす生徒像～3つの“C”》

- ◇ 進んで学ぶ生徒 “ Challenge ”
- ◇ なかよく助け合う生徒 “ Communication ”
- ◇ 明るく元気な生徒 “ Cheerful ”

大阪市立大正中央中学校 2024年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題**【現状】**

本校では、年度ごとに全国学力・学習状況調査等、各種調査及び学校評価アンケート(保護者・児童)における調査結果の分析を踏まえ、大正中央中学校「学校教育改善アクションプラン」を策定し、教育活動を進めている。今年度は**2つの「きょういく」(共育・響育)**をテーマに、「**確かな学力の育成**」・「**自尊感情・自己有用間の向上**」・「**健康で心豊かな心身の育成**」に取り組んでいく。

(2024年度「大正中央中学校 学校教育改善アクションプラン」参照)

令和5年度チャレンジテスト(+1年チャレンジテスト plus)における**本校平均正答率の対大阪市平均比**は、以下の通りであった。

※()は対大阪府平均比

	国語	社会	数学	理科	英語
3年生	0.86 (0.86)	0.76 (0.75)	0.76 (0.75)	0.81 (0.81)	0.72 (0.72)
2年生	0.85 (0.85)	0.87 (0.87)	0.80 (0.80)	0.83 (0.84)	0.76 (0.76)
1年生	0.87 (0.86)	0.90	0.93 (0.94)	0.99	0.87 (0.87)

平均正答率については、**すべての学年で大阪市平均を下回ったが、1年生の数学、理科については、大阪市平均に近づいた。**

また、校内の生徒アンケートにおいて、「**1日当たりの家庭学習時間**」では、1時間以上と回答している生徒の割合は(平日) **3年: 64.3% 2年: 46.9% 1年: 50.1%**と、家庭学習において課題が見られた。

校内の生徒アンケートにおいて自尊感情の項目である、「**あなたは、自分にはよいところがある**」および「**将来の夢や目標を持っている**」において肯定的な回答をしている生徒の割合は、それぞれ **65.6%、63.6%**と、昨年度からほぼ横ばいである。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から、**男子の上体起こしは全国平均を超えている。**しかしながら、男女とも**立ち幅とびは大阪市平均を大きく下回っている。**

【課題】

これまでの調査結果から、本校では**学力向上に大きな課題**がある。この課題に対して、**生徒の読解力向上**に取り組んでいくとともに、**家庭学習の定着**に努める必要がある。

生徒の体力における課題改善のために、体育の授業の始まりの準備運動を丁寧に行い、継続させることで生徒の柔軟性、瞬発力、体幹を鍛えていくとともに、**普段から運動ができるような環境**を整えていく必要がある。

また、各種アンケート結果から「**生徒の自尊感情・自己有用感**」の項目や、「**学校が楽しい**」の項目が他の項目よりも低いことがわかる。そのため、本校では「**2つのきょういく『共育』(共に学び育む教育)『響育』(生徒の心に響く教育)**」を教育方針として、「**大正中央中学校 学校教育改善アクションプラン**」に取り組んでいく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・ 2025 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 85%以上にする。
- ・ 2025 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を令和 4 年度～令和 7 年度内で前年度より減少させる。
- ・ 2025 年度末の校内調査において、前年度の不登校生徒の改善の割合を令和 4 年度～令和 7 年度内で前年度より増加させる。

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・ 2025 年度の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 35%以上にする。
- ・ 2025 年度の中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、2022 年度に対していずれの学年も 0.1 ポイント向上させる。
- ・ 2025 年度の大阪市英語能力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する 中学 3 年生の割合（4 技能）を 50%以上にする。
- ・ 2025 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 60%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 2025 年度末の授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 80%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕
- ・ 2025 年度内に「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する 基準 1 を満たす教員の割合を 40%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・年度末の校内調査における、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を 80%以上にする。
- ・年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
(前年度 8.3%)
- ・年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
(前年度 20.0%)
- ・年度末の校内調査における、「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。
- ・年度末の校内調査における、「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 60%以上にする。

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・年度末の校内調査における、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を 30%以上にする。
- ・中学生チャレンジテストにおける、国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.05 ポイント向上させる。
- ・大阪市英語力調査における、CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) を 28%以上にする。
(前年度 27.7%)
- ・年度末の校内調査における、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 50%以上にする。
- ・年度末の校内調査における、「学校の時間以外の家庭学習」について、1 時間以上の生徒の割合を前年度以上にする。
(前年度 平日 58.0% 休日 37.6%)
- ・全国体力・運動能力、運動習慣調査における、3 種目を大阪市平均以上にする。
(前年度 1 種目)
- ・年度末の校内調査における、「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 60%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕
- ・年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90%以上にする。
- ・年度末の校内調査における、「学校は ICT 機器を活用した教育に取り組んでいる」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を 80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ・年度末の校内調査における、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を 80%以上にする。 ・年度末の校内調査における、<u>不登校生徒の在籍比率を前年度より減少</u>させる。 (前年度 8.3%) ・年度末の校内調査における、<u>前年度不登校生徒の改善の割合を増加</u>させる。 (前年度 20.0%) ・年度末の校内調査における、「学校の規則を守っていますか」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上</u>にする。 ・年度末の校内調査における、「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を 60%以上</u>にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現 徳】 ・いじめの防止や早期発見・対応には学校すべての教職員が自らの問題として受け止め、取り組んでいくことが重要と考え、学校全体で生徒観察、定期的にいじめアンケートを実施し、いじめの早期発見に努めるとともに、<u>いじめを許さない環境を作る</u>。 ・不登校生徒について、いじめ・不登校対策委員会等で議論し、具体的対応策のもと、学年、生活指導部を軸とし、<u>外部機関とも連携し組織的な対応</u>に取り組む。 指標 ・校内調査における「いじめは、許せないことだと思う」において、<u>最も肯定的な「よくあてはまる」と答える生徒の割合を 80.0%以上</u>にする。 ・年度末の校内調査において、<u>前年度の不登校生徒の改善の割合を前年度より増加</u>させる。 (前年度 20.0%) 取組内容②【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現 徳】 ・学校生活を通して、集団規律の確立を心掛け、あいさつ・言葉遣い・身だしなみ等、生徒の規範意識を高める教育に取り組む。 ・集団生活における基本的な生活習慣態度を身につけ、ルールを守るとともに、正しい判断と行動ができる生徒を育成する。 指標 ・年度末の校内調査における、「学校の規則を守っていますか」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上</u>にする。	

取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成 徳】 ・学校教育活動全体を通じた道徳教育活動を進め、人権教育、特別活動など、様々な体験を通して、生徒同士が互いの違いを認め合い、高め合う教育を実施する。 指標 ・生徒アンケートの「命や人権の大切さについて考えることができています」において、最も肯定的な「よくあてはまる」と答える生徒の割合を前年度以上にする。 (前年度 63.6%) ・生徒アンケートの「友達の気持ちを考え、友達を大切にしている」において、最も肯定的な「よくあてはまる」と回答している生徒の割合を 65.0%以上にする。	
取組内容④【基本的な方向 2 豊かな心の育成 徳】 ・自身がかげがえのない存在であると実感できるよう、学校教育活動だけではなく家庭・地域等との連携を図り、自尊感情、自己有用感を高める。 指標 ・年度末の校内調査における、「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 60%以上にする。 ・生徒アンケートの「道徳の授業を通して、自分の成長を実感できています」において、肯定的に答える生徒の割合を前年度以上にする。 (前年度 76.6%)	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①【基本的な方向 1 安心・安全な教育環境の実現 徳】 ・5/7 命・いじめについて考える日（全学年） 5/24 いじめ予防教室（1年生） 7/4 折れない心を育てる命の授業（2年生） 7/18 情報モラル教室（3年生） など、命や人権について考える機会を設けることができています。また、必要に応じてスクールカウンセラーや関係諸機関との連携など、迅速な対応に努めることができています。 取組内容②【基本的な方向 1 安心・安全な教育環境の実現 徳】 ・登下校の指導や、テスト・懇談期間中の地域巡視など、生徒の安全と安心を守るために学校全体で生徒を見守る体制がとれている。 ・今年度も生徒会を中心として、「校則の見直し」を行っている。 取組内容③④【基本的な方向 2 豊かな心の育成 徳】 ・9/10 道徳プレ公開授業では、各教員が道徳教育に対する理解を深め、指導にあたることのできた。	
次年度への改善点	

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓くための学力・体力の向上】 ・年度末の校内調査における、「<u>学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか</u>」に対して、<u>最も肯定的な「当てはまる」</u>と回答する生徒の割合を <u>30%以上</u>にする。 ・中学生チャレンジテストにおける、<u>国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.05 ポイント向上</u>させる。 ・大阪市英語力調査における、<u>CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を 28%以上</u>にする。（前年度 27.7%） ・年度末の校内調査における、「<u>学校の時間以外の家庭学習</u>」について、<u>1時間以上の生徒の割合を前年度以上</u>にする。（前年度 平日 58.0% 休日 37.6%）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 【知】】 ・授業だけでなく、文理融合的な総合的読解力育成カリキュラムを通したリベラルアーツ教育なども実施して、読み取った情報の要約や考えを形成する学習を行う。 ・課題解決型学習の中で、コミュニケーション活動に取り組み、自分の考えを広めたり、深めたりする学習を行い、思考・判断したことを表現し、それを基に議論する力を養う。 指標 ・年度末の校内調査における以下の質問に対して、<u>最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を目標値以上</u>にする。 ①「情報を正しく読み取って、まとめることができる。また、そこから自分の考えを持つことができる」（目標値 20%以上） ②「話し合い活動で、自分の考えを他の人に説明することができる」（目標値 20%以上） ③「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」（目標値 30%以上）	

取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上 知】 ・日々の教育活動全般において、実用的な文章やトピックを取り上げ、言語活動の充実を図り、問題を読み解く読解力や教材資料に対する情報活用能力を育成する。 ・言語活動・理数教育を通して「主体的・対話的で深い学び」の授業を展開し、思考力・判断力・表現力等の育成に取り組む。 ・各教科において小テストや単元テストに取り組み、学習を振り返る機会を短期的にすることで、生徒の学びに向かう姿勢や学習に対する自己調整力を醸成する。 指標 ・中学生チャレンジテストにおける、国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.05 ポイント向上させる。 (前年度 2 年 : 国 0.85 数 0.80 1 年 : 国 0.86 数 0.94)	
取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上 知】 ・授業内での実用ワークやスキルテスト等に C-NET を効率的に活用し、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」の英語 3 技能の強化に取り組む。 ・目的・場面・状況に応じた実践的な学習法により、生徒一人ひとりのリーディング・スピーキングの機会を増やす。 ・習熟度別授業を活用し、学習成果を英語表現で表す活動を通し、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の英語 4 技能の総合的な強化に取り組んでいく。 指標 ・大阪市英語力調査における、CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) を 28%以上にする。 (前年度 27.7%)	
取組内容④【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上 知】 ・授業の予習・復習等に活用できる家庭学習教材を教科ごとに作成し、提供することで、自主学習の習慣を定着させ、自ら学ぶ態度を養い、学力の向上を図る。 指標 ・年度末の校内調査における「学校の時間以外の家庭学習」について、1 時間以上の生徒の割合を前年度以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上 知】 ・1 年生の探究・読解プロジェクト、2 年生のキャリアチャレンジの取り組みを中心に、リベラルアーツ教育の推進に取り組んでいる。課外活動においては、生徒会が 3 B 生徒会交流会やスマホサミットに参加し、議論し自分たちの意見を伝え、考えを深める活動を実施している。また、各学年において、総合的な学習の時間・特別活動の時間に生徒たちで一つの議題について考える時間を設け、議論する力を身に付けさせるように努めている。 取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上 知】 ・各教科において小テストや単元テストを実施している。思考力・判断力・表現力を育成するために、班活動など様々な学習形態において、コミュニケーション活動を通して「主体的・対話的で深い学び」の授業を展開し、朝学活の時間には読み物資料の課題に取り組んでいる。	

取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上 知】

・C-NETとの授業においては**オールイングリッシュの授業**を実施している。特に、「聞くこと」「話すこと」の強化に取り組み、スピーキングテストをC-NETに実施している。「書くこと」の強化に向けては、新出単語や單元ごとの小テストに取り組み、**C-NETによる英作文の添削**を実施している。「読むこと」については、今後、長文を読む機会をさらに増やし、長文読解力の育成に向けた取り組みに努めたい。

取組内容④【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上 知】

・**オンライン課題の活用や学習者用端末の持ち帰りが拡充**している。今後も、各教科における宿題の配付状況および課題の達成率の調査等を実施し、より一層家庭学習を定着させられるような取り組みを実施していきたい。

次年度への改善点

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓くための学力・体力の向上】 ・年度末の校内調査における、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、<u>最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 50%以上にする。</u> ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における、<u>3種目を大阪市平均以上にする。</u> (前年度 1種目) ・年度末の校内調査における、「朝食を毎日食べていますか」に対して<u>肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。</u>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 5 健やかな体の育成 体】 ・体力テスト、体育的行事（体育大会等）を日頃の体育の授業や部活動での成果を発揮する場としての位置づけ、体育委員会を中心とした主体的活動に取り組む。 指標 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における、<u>3種目を大阪市平均以上にする。</u> ・年度末の校内調査における、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、<u>最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 50%以上にする。</u>	
取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成 体】 ・様々な教科や総合的な学習、特別活動等を通じて健康に関する指導を実施する。 ・今後も感染症の予防のために日常的な健康指導を実施する。また、薬物乱用防止、環境問題などの課題について、正しい知識を身につける取組をおこなう。 指標 ・年度末の校内調査における、「自分の健康に気をつけている」において<u>肯定的な回答を前年度より向上させる。</u>	
取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成 体】 ・地域の防災活動や避難訓練、救命救急講習などを通して、自助・共助・公助を理解し、日常の備えや的確な判断のもと行動できる態度を育成する。 指標 ・年度末の校内調査における、「命や人権の大切さについて考えることができています」において<u>肯定的な回答を前年度より向上させる。</u>	

取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】 ・生活委員会で、健康的な生活習慣の意識づけを目的とした活動を積極的に行い、生徒一人ひとりが健康に気をつけるように取り組む。 ・生徒に健康の大切さを身につけさせるために「保健だより」「食育だより」「給食だより」などの資料を定期的に発行し健康意識を向上させる。 ・食に関する知識を身につけさせるため、学校給食を生きた教材とし、各教科の関連する教材と連動した指導をおこなう。 指標 ・年度末の校内調査における、「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。	
---	--

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】 ・4/26 新体力テスト（全学年）を今年度より一日かけて実施して、体育科だけではなく教職員全員で生徒の運動能力の向上に努めた。 ・体育大会を今年度より、9月から6月に変更して年度開始より主体的に運動活動に取り組むことができた。	
取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】 ・7/1 薬物乱用予防教室や保健体育、理科の授業で体の仕組み、薬物などによる体の健康被害を正しく学び、日ごろから自分自身の健康について考える習慣を身に着けることができている。	
取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】 ・6/21 避難訓練、6/24 緊急時集団下校訓練を行うことで、緊急時に的確な判断で行動できる心構えを持つことができている。	
取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】 ・4/9、8/27 二測定の二回実施(全学年) ・4/4 食物アレルギー教員研修 ・7/8 食育セミナー「運動と水分補給」(2年生) ・9/25 食育セミナー「運動と食事」(1年生) これらの活動を通して日ごろから食や身体の大切さを意識して学校生活を送ることができている。	
次年度への改善点	

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の60%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕 ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。 ・年度末の校内調査における、「学校はICT機器を活用した教育に取り組んでいる」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を80%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進 知】 ・教員の授業力向上に向けて、学習者用端末を活用するための校内研修を実施し、授業や家庭学習におけるICT機器の補完的活用法を研究する。 ・ICT機器の整備と効率的な運用を図る。 指標 ・年度末の校内調査における、「学校はICT機器を活用した教育に取り組んでいる」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を80%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり 管】 ・「働き方改革大正中央2023」を引き続き実践していくことで、教職員の時間外勤務時間の削減に努める。 指標 ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。	
取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進 管】 ・学校ホームページや学年だよりなどを通して、学校の取り組みを保護者・地域へ広く発信していく。 指標 ・保護者アンケートにおいて「学校は、教育方針や教育活動を、学校ホームページや学年だより等でわかりやすく伝えている」において、最も肯定的な回答を前年度以上にする。 (前年度 45.5%)	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①【基本的な方向 6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進 知】 ・教員の授業力向上のために、Google Classroom を使用した実技の校内研修会を 1 回実施した。また、8 月には ICT 教育アシスタントによる Google スライドの活用について校内研修会を実施した。教員間の相互授業参観においては学習者用端末の活用をテーマに授業研究に取り組んでいる。昨年度と比較しても、学習者用端末の使用頻度は向上しており、ICT 機器を活用した教育活動に取り組んでいる。ICT 機器の整備については学習者用端末の故障対応などをマニュアル化し、校内研修会で共有することで全教職員が対応できる体制づくりをした。今後は、協働学習支援ツールの活用を拡充するため、研修会や研究授業を実施していきたい。 取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり 管】 ・今年度より、1 年生で「チーム担任制」を導入し、担任の業務負担軽減に努めるとともに、成果と課題について検証を行っている。 ・8/26（月）「働き方改革」および「チーム担任制検証」の研修を実施した。 ・2 学期より「個人定時退勤制度」を導入し、教職員全員が月に 1 回以上、定時に退勤できるよう取り組んでいく。 取組内容③【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進 管】 ・「ミマモルメ」の加入率向上により、学校からの案内、学年通信等をメールで配信することができている。 ・毎日、学校ホームページを更新することにより、本校の教育活動を広く発信することができている。
次年度への改善点